

# インテリアコーディネーターが語る塗料の魅力

住宅や店舗などの室内空間をデザインするインテリアコーディネーターは、施工と施工業者の間で立ち、家具・照明・建具そして塗料にいたるあらゆるものをコーディネートする重要な役割を担う。今回インテリアコーディネーターの方々に塗料についての意見を伺った。

## 「ストライクゾーンが広い」ことが塗料の魅力

塗料と言う素材の魅力 特質には魅力を感じまは、まず調色により、イ

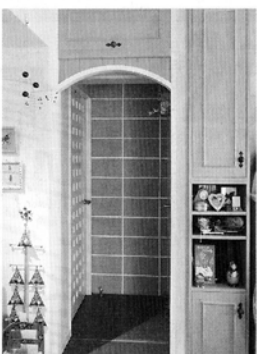
ンテリアに調和する色合いを作り出すことができなわち「素材の持ち味を生かせる」という点では、他の壁紙やフィルムと重ねる回数を変えることにより、同じ色でも仕上がりを調整できるのも良い点です。

塗料は「本物の風合い」を出せることも魅力で、塗膜が時間を経つと変化しますが、それによって独特の風合いが出てきます。最近では、木目などの「質感」を大事にする傾向がありますので、それを引き立たせる

## 「塗料 塗装の基礎講座の充実を希望」

写真の物件では、「体に優しい材料を使う」というのが、インテリアカラーのインテリアに任じられるという要望があり、塗料・塗膜に関する仕上げを採用した。お客様の健康重視というご要望から塗料・塗り壁を使ったというご要望もあり、塗料には色の選択が無数にあるというご要望も採用した理由のひとつです。壁紙ですと、イメージ通りの色を探すが難しかったり、見つからなったりすることがあります。

塗料や塗膜は、完全に均質を目指して塗布した時にも、手作業による自然なブレの味わいがあります。そういう部分は、今回の仕上がりでは、質感の良さになっているのかな、と思っておりました。



使用塗料(実施に使用したもの全て) リノフット、スウェードおひHip(カラーワークス)、ウッドワークス(日本オースト)、健康塗り壁、イアートマス(日本フアクトリー)

素材に染み込んだり、色が経つにつれて風合いが出たりと、「塗料は自然の性質を背負っている」と思っています。だから、塗布された後で周りには馴染んでいくでしょう。インテリアコーディネーターは、調和の取れた空間を作ることが仕事なので、そういう意味から、塗料は有効な材料だと思います。



使用塗料(内・外装用) リオスモカラー、ウッドステインプロテクター(人体やペットに優しい)、さらに木質塗膜による美しいステイン仕上げができることから選択 ※写真は施工中

「特性」への理解がまだ不足しているのではと思う点があります。「特性」とは、油性や水性といった塗料の種類とそれそれぞれの特徴、乾くまでのどのくらい時間がかかるのか、使い道としてどのような素材への塗装にむいているのか、反対にむいていない素材や使用には何なのかといった様々な点です。

このように、塗料についての詳細で体系化された知識というのは、塗料メーカーや塗装店にとっては基本的なことなので、しかし、インテリアコーディネーターは、室内の家具や照明、カーテン、建具などあらゆる物品についての知識が要求されます。塗料業界の方には、こうしたインテリアコーディネーターの仕事にあわせて塗料・塗装についての知識が深まるような情報交換の機会を設けていただければ、非常にありがたいと思います。

施工のイメージを具現化して施工業者に伝えるインテリアコーディネーターが塗料のことをもっと理解すれば、塗料業界にとってもインテリア業界にとっても、お互いに更なる発展が見込めるのではないですか。

▽滝本香苗(日本インテリア)

塗料の課題としては、「色あわせの時間」の認識が、残念ながらまだ不足されている感があります。つまり、作業の手配の中に「デザイン」とか「色の選択」という工程が入っていないことがあるのです。このあたりの認識がもっと周知されると、全員が気持ちよく作業できるのではないかと思います。

インテリアコーディネーターの仕事では、最近いろいろな種類の材料をひとつの部屋に使う現場が増えています。例えばプリントしてあるフィルム、木、壁紙、タイル、ガラス、金属や海外から輸入された材料などです。これらを統合して、狭い空間を他の照明器具といったものとコーディネートするというのは、相当なスキルが必要となってきます。その意味でも、施工の工程

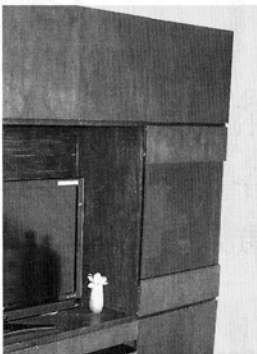
を上手く調整することが大切ですね。結論としては、塗料の難しい点は、デザインや色調の調整に手間がかかることです。しかし、良い点としては「ストライクゾーンが広い」ので、塗料を様々な素材の中で使うと、うまく素材同士を調和させる役割を果たしてくれるところでしょう。

インテリアコーディネーターの仕事では、最近いろいろな種類の材料をひとつの部屋に使う現場が増えています。例えばプリントしてあるフィルム、木、壁紙、タイル、ガラス、金属や海外から輸入された材料などです。これらを統合して、狭い空間を他の照明器具といったものとコーディネートするというのは、相当なスキルが必要となってきます。その意味でも、施工の工程

「融通がきく塗料というツール」 私は建設会社を兼業しており、お客様には基本的に木材による仕上げを提案しています。塗料の良さは、これら木材に塗ると、塗り方のひとつで表面の仕上がりを変えることができ、色の深みなども壁紙に比べて、深みも色調も合わせて、全体の色調を合わせて統一感を生み出すことができるのです。

この度のインタビューに協力いただいた「日本インテリアコーディネーター協会」は、会員の技量向上のため、積極的な講習会などを開催。本紙でも度々その活動状況を報じている。

使用塗料(実施に使用したもの全て) リノフット、TNSシリウス、無溶剤タイプクリアー着色仕上げ(内装)、オールドウィレックリアー、ヘイズグレイス



使用塗料(実施に使用したもの全て) リノフット、TNSシリウス、無溶剤タイプクリアー着色仕上げ(内装)、オールドウィレックリアー、ヘイズグレイス

塗料の課題として思うのは、ひとつには塗った時の調子が簡単に分かるようだとおもしろいというところ。あとは、壁紙に比べて塗料のほうが、失敗した時の塗り直しやメンテナンスが面倒だと思う。これは私も知れませんが、単なる塗料の方が簡単なのですが、ただ、それは実際に塗装作業をやってみないと実感できないと思います。

▽小島真子(日本インテリアコーディネーター協会) 自営の建設会社のインテリアコーディネーターの他、フリーでも活動。各種メディアへの掲載実績あり。他にもセミナー講師・家具販売・コーディネーター業をアンテリアを軸に幅広く活動中。

ホームページ: <http://www.laugh-style.jp/>

この度のインタビューに協力いただいた「日本インテリアコーディネーター協会」は、会員の技量向上のため、積極的な講習会などを開催。本紙でも度々その活動状況を報じている。

ホームページ: <http://www.ic-on.jp/>